

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白平 博文



■ 学校給食における地産地消が進んでいます

山口県教育委員会が、昨年度の公立小・中学校での地場産食材の使用状況をまとめました。それによると、県下 19 の市町とも年次的に割合を伸ばしていますが、その中でも前年度から最も使用率を伸ばしたのが山陽小野田市で 17% 増。使用率は 59% で県内全市町で 4 位。「業者への発注については、地元市内産を優先し、無ければ県内産を優先するよう注文した。」「給食試食会を利用して、保護者から地場産食材を使った料理を教えていただき、献立表作成のヒントにした。」など、学校給食関係者がいろいろ工夫してくれた成果のようです。

市内の児童・生徒の総数は約 5,300 人。給食費の総額は約 2 億 5,000 万円です。「可能な限り地元産、それも市内産の食材を使用してほしい。」この市民の要望に押されて、ようやく現場も動き出したように思います。

4 月 14 日には「ふるさとの食」推進事業ネットワークが発足し、学校給食で使う「玉ねぎ・じゃがいも・にんじん」の 3 品について、市が市内の農家に必要量の作付けをお願いしました。平成 22 年度から、その実績を踏まえて、少しずつ品目を増やしていきたいと考えています。

■ 審議会の答申が出ました

3 月 31 日、市特別職報酬等審議会から市長、副市長の給料や市議会議員の報酬について、答申をいただきました。2 年に 1 度、見直しをし

ていただくためのものです。答申は市長と副市長の給料月額を旧小野田市と同額をベースにして 20% カット、議員の報酬は旧小野田市と月額は同額ながら期末手当は無しとするもので、「現行の支給額を維持することが適当」という結論でした。答申によると、議員は引き続き、報酬月額 37 万円 × 12 か月 = 444 万円だけです（これに若干の政務調査費等が支給されます。）。なお、現在は、この 444 万円が報酬と期末手当に分けて支給されています。この議員報酬額が果たして妥当か、それとも低すぎるかについては意見の分かれるところですが、現下の財政状況に照らし、もうしばらく今回の答申を尊重したいと考えます。

■ 惜別と新しい出会いがありました

春は惜別の季節ですが、新たな出会いも生まれます。3 月 31 日、合併後の 5 年間に、苦楽を共にした職員との別れには、さすがに胸にこみ上げてくるものがありました。しかし翌日には、市長部局に初々しい若い職員を 10 名迎えました。やがて一人前に育つ日が待ち遠しい想いです。ちなみに、平成 21 年度の退職者と、平成 22 年 4 月 1 日採用の正規職員数は、市長部局等、病院局、水道局の順に、「退職 51 名（うち 4 名は消防）、採用 14 名（うち 4 名は消防）」「退職 13 名、採用 5 名（医師のみ）」「退職 4 名、採用 2 名」です。

対話の日

4 月 22 日(木) 19:00 ~
高千帆台自治会館